

令和3年度 自己評価・学校関係者評価報告書

令和4年5月28日

学校法人 ひかりの子学園
認定こども園 ひかりの子幼稚園

1. 本園の教育目標

- キリスト教の理念に則り、子ども一人ひとりには神さまから愛されているかけがえのない尊い存在と捉えます。
- 自由保育を基本とし、自分と他者を互いに愛すること、子どもたちの主体性を尊重することなど、共に生きることを通じた幼児期の心身の成長を見守り支えます。

2. 本年度重点的に取り組む目標・計画

「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」に照らし合わせ、一人ひとりの幼児を大切にしたい質の高い教育の実践をするために、本年度「子どもの声を聴き、深めていく保育」を目指します。

3. 評価項目の達成及び取り組み状況

No.	評価項目	評価	取り組み状況
1	教育の質の向上のために園内研修を充実させる	B	外部研修の中止やオンラインに変更となる中、園内でキンダーカウンセラーのアートセラピーを全員が受けた。また兵庫教育大学の学識者による教育講演会を保護者向けに実施した。職員向けには人とのつながりの中で子ども達に何が育っているかその読み取りについての研修を2回行った。交野教会の牧師先生から聖書研究を月1回開催するとともに、キリスト教保育連盟のオンライン研修を全員が受け、キリスト教の知識を深めた。
2	学期ごとに各クラスの運営の成果と課題を報告する	B	各学年の年、学期、月の予定目標を定め、毎月その様子を振り返り共有した。写真やエピソードを通して、活動のねらいや子どもの成長をドキュメンテーションで保護者に発信することが、教員同士の刺激になり、視野の広がりや新たな興味に繋がった。また学期末に全員でKPT法での自身の保育を客観的に振り返り、次年度の目標をそれぞれが掲げた。
3	各研修会や研究会に積極的に参加して職員に提供する	A	大阪私学幼稚園連盟の動画研修を長期期間活用し、「若手保育者育成研修」「特別支援」「3歳の初めての絵の具活動」「保育の記録・可視化・発信の重要性」の研修を全職員で参加し、共通認識が持つことができた。継続して受けている兵庫教育大学の学識者の研修では午前中の各クラスの取り組みをカメラに収め、そこに何が育っているのかを客観的に解説して下さり、教員の保育の良き相談相手ともなった。
4	園だよりやクラスだよりを通し園内の情報を発信している	A	コロナ禍で保護者がクラスの活動を見る機会が激減したことを補うため、クラスだより、園長通信に加え、インスタグラム、ドキュメンテーション、ホームページなどのICTツールを昨年に引き続き積極的に活用し、クラスの活動のねらいを情報発信した。何かができたと目に見える結果より、見えない過程や失敗や話し合いの中にこそ、子どもの心の成長や発達があるということを保護者に理解してもらうよう努めた。
5	保護者のニーズや把握に努め、要望などに適切に対応している	B	保護者との個人懇談会、オンラインによるクラス懇談会を実施し、幼稚園と家庭が信頼し、協力関係が図ることができるよう取り組んだ。また保護者アンケート結果を保護者に公開し、園の保育理念や取り組み、財務情報について、ホームページにて情報開示するよう取り組んだ。その結果、保護者の思いや要望など知ることができ、保護者と園の繋がり方を改めて再考する機会となった。

評価 (A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった)

4. 総合的な評価結果

評価	理由
B	<p>評価項目について、重点的に取り組んだ結果、一人ひとりを大切に、「子どもの声を聴き、深めていく保育」をほぼ実践することができました。</p> <p>来年度に向けて、年度末に職員全員でKPT法、PDCAを予定しています。個人のKPT法では1年間振り返って良かったこと、努力したこと、来年度に向けて自分の課題や挑戦したいことを、一人ひとりが発表し、その結果をもとにPDCAを行い、振り返りを次に生かしていけるように園で取り組んでいきます。</p> <p>保育の質向上に向けて自らの課題を明らかにし、目標を掲げ、積極的に課題に取り組んでいく1年でありたいと願っています。</p> <p>昨年度課題で挙げられていた「異年齢交流」はコロナ禍ではありましたが、昼食の手伝い、森の委員会、活動の見合い、体操交流会など、工夫を凝らし行うことができました。「情報発信の工夫」でSNSから園に興味を持った方が新入園児のへと繋がりました。「発達症」は障がいではなく症状であり、その子が生きやすくなるために周りの大人の理解が必要ということを研修で学びましたが、まだまだ理解は浅いため、今後も研修などで学んでいきたいと思っています。</p> <p>保育室の教師棚の整理が行われ、年度末の引っ越しの軽減化が図られました。</p> <p>今後の課題解決に向け、更なる保育の質の向上のために個人、また園として取り組んでいけるよう到来期の計画を十分に練りたいと考えています。</p>

評価 (A…十分に成果があった B…成果があった C…少し成果があった D…成果がなかった)

【注釈】KPT法：「振り返り」によって、保育や業務内容の改善を加速させるフレームワーク

Keep：良かった点を続ける、Problem：問題点・課題点を見つける、Try：問題点・改善点に挑戦する

PDCA：Plan（計画）・Do（実行）・Check（評価）・Action（改善）のプロセスを繰り返すことで品質を高めること

5. 今後取り組む課題

No.	課題	具体的な取り組み方法
1	環境	<p>新園舎のトイレ改修、ホールの屋根改修は夏休みに済。保育室内に棚が増えたことにより、第2職員室や2階倉庫などの備品や製作材料や衛生品ストックを、保育室に移動した（夏季休暇中の改装工事に備えるため）。また室内の保育環境はカリキュラム用紙を見直し、明日の保育環境や、配慮すべき点が紙面上に表れるように改良した。園長、副園長が毎日確認し、必要に応じてコメントを記入している。2022年度夏には職員室が改装されるため、学年カリキュラム会も職員室で行い、副園長、主任、学年同士の交流が図るよう努めていきたい。</p>
2	安全管理	<p>月1回職員で園庭、遊具、保育室、廊下、階段、外周等点検場所を決めての安全点検を行っている。その後危険箇所を皆で共有し、すぐ改善できること、業者に依頼することを分類して対処している。今まで同様、高い遊具には必ず職員が見守るように職員間で共通理解をして、安全管理を引き続き行う。その日のけがは終礼で報告し、けがノートに記入している。昨年末森に大型遊具ができ、子どもたちにルールも浸透してきた。昼休みなどもう少し子どもたちが自由に森で遊べるようにしていくのが今後の課題である。月1回の安全点検は今後も継続して行う。また避難訓練は月1回行っているが、いろいろな場面からの避難を想定することを来年度の課題としている。</p>
3	支援教育	<p>大私幼の研修動画配信を利用して、全職員で梅花女子大の学識者の「子ども理解と関わりの視点」の研修を12月に行った。対応に配慮のいる子どもは、園長、副園長、主任、キンダーカウンセラー、交野市の巡回相談の先生と随時カンファレンスを行い、子ども、保護者、担任を支えていく体制を作っている。保護者に巡回相談の利用を保護者に提案するときは、担任だけでなく園長、副園長のアドバイスも取り入れ、園全体で取り組み、保護者理解が得られるように、慎重に対応するように心がけている。これからも支援の方法についての研修を全職員で行っていく必要性を感じている。</p>

No.	課 題	具体的な取り組み方法
4	異年齢 交流	年少組の給食のお手伝い、さくら組へのヘルプ、運動会活動の見合い、クリスマス会での予行見学など異年齢で育ちあうことを大切にしている。「けん玉パフォーマンス」をひかりの子ミニ祭りで見た年長組が「けん玉」に挑戦したり、お正月遊びの駒回しもお家でお父さんから教えてもらったり、練習をして意欲が高まって来ている。大きい子がすることを小さい子が見て刺激を受けている。運動会、クリスマス等行事での縦のつながりを考えた各学年のねらいを共有し、可視化して、全員が共通意識を持てるようになることが今後の課題である。
5	情報 発信	クラスの様子は担任がクラスだより、ドキュメンテーション、インスタなど発信している。全体の行事は主にフリー職員がインスタを担当している。 「入園説明会」「あそぼう会！」は少人数定員で回数を多くするよう心掛けた。来年度の「あそぼう会！」を年間8回予定している。 新来園者の多くはHPから園を知ってくれる方が多く、今後ますますインスタなどで園の教育方針が伝わる取り組みを発信していくことが重要だと思われる。2022年度の新入園予定は昨年度より15名増の見込み。
6	職員 研修	1学期にオンラインによる教育講演会、その後職員園内研修、2、3学期はキンダーカウンセラーによる「アートセラピー」を少人数単位で受講した。また全員で「感染症対策セミナー」をオンライン受講して、消毒など感染症予防対策について学んだ。また大阪府私立幼稚園連盟第31回研修大会のオンライン研修から4つの研修を全員で見た。特に「若手保育者育成研修」は育成する方、される方両者が見たことで共通意識を持ってたことが良かった。十分な体系化がされていない現状を認識し、今後の課題であり来年度より手掛けていきたい。また、オンライン研修を積極的に活用して新任、中堅、主任、管理職など職責にふさわしい研修を計画し、人材育成を目指していきたい。
7	仕事の 軽減化	一人1台のPCが支給されこともあり、月末の事務仕事がしやすくなり、職員が計画的に仕事により残業が減った。また、管理職も意識して早く帰るように呼びかけている。また年度末の保育家具や私物の小物の引っ越し作業を軽減化するため、フリーの先生が全クラスの備品や保育用品などをチェックして、不要物の処分、また共有備品などの購入を実施した。さらに来年度は職員室の改修があり備品の整理整頓が行われ、使いやすくなると思われる。2階倉庫、図書室の整理が来年度の課題である。

6.学校関係者の評価

教育目標に沿った取り組み状況は概ね妥当と評価できる。今後の取り組み課題に加えて、以下の意見について可能な範囲で実践して頂ければと思う。一人ひとりの幼児を大切にした質の高い教育保育を深化させて頂くことを期待し、今後も園の運営状況を確認していきたい。

- 教育保育の質の向上のため、積極的に各研修会に参加していることがわかり、今後も職員の見解を取り入れた研修を展開し、保育の質向上を継続してもらいたい。
- 保育の取り組みについて、外部講師による研修会や講演会で第三者から見た客観的な解説が行われているため、教職員の気づきや保護者の信頼性が高くなると思う。
- コロナ禍で保育の様子が見えないため、各クラスの様子を発信（オンライン配信含む）するなど保護者の理解に繋がるような機会を積極的に増やしてもらえたらと思う。
- SNSを活用し、研修の取組みを周知することで園の魅力をアピールしていけばいいと思う。
- 保護者からの要望を聞けるように、ご意見箱などがあればいいと思う。
- 園の理念と方針に合わせてよく勉強され、真剣に取り組まれている。
- アンケートの回答率の高さは保護者の関心度の高さで、園を頼りにされていると思う。
- 教職員の取り組みや異年齢の繋がり、配慮のいる子どもへの対応が、子どもたちの成長に大いに繋がっていると思う。
- バスの運転手さんのアットホームな感じは個人的には残してほしいと思う。
- 保護者向け教育講演会は、他の外部講師の話も聞ければ、参加する保護者も増えると思う。
- 前年度の様々な課題を実践し、良い方向に向かえたようで、今後の課題も同様に取り組んでほしい。
- 事務書類作成や行政等監査に労力がかかると察するので、教職員の職場環境づくりをさらに進められれば良いと思う。
- 保育者自身の人格向上に努められ、自身の経験を園児に伝えるとともに、園児の持つ潜在能力を発掘することも大切な役割であると思う。
- 園児の成長や将来を考え、キリスト教の理念に則る教育保育を中心にしつつも、幅広い教育保育を心掛けてほしい。
- 異年齢交流は大変すばらしく、年上の子ども達から色々な教えを受けることは、両親や先生より受けた事柄以外に大変役に立つこともあると思う。
- 現在は環境・安全面で昔と比べ良い反面、危険の度合いも増加し、偶発的な事故が多発しているため、教職員、保護者、園児に危険を感知する心得を身に付けてもらえればと思う
- 自然観察の機会が減少している今日、園及び周辺には自然環境に恵まれているので、自然観察を通じて、自然の営みより様々な知識を学び取ることも大切であると思う。
- 教育目標が「キリスト教の理念に則り」とあり、素晴らしいと思うと同時に、教職員が理念を深く理解することが非常に大切だと思う。
- キリスト教の理念は、他の宗教が伝えていることと相反するものではなく、同様な教えであると捉えることもできると思う。
- キリスト教に関わる研修が行われているが、「キリスト教の知識」にとどまらず、人生における宗教の意味、イエスをはじめ多くの聖者が伝えたことについて、具現化することを考える園・教職員であってほしい。社会全体を光溢れるものとする一翼を担っていることを意識した取り組みを期待する。
- インクルーシブ教育の理念から支援教育と変更されていることから、様々な場面で個別対応が必要な園児への丁寧な対応がなされていることが窺えるので継続してほしい。
- 教職員の負担軽減が評価できる。
- 教職員が働きやすい職場環境であることは、研修や自己研鑽を実現することに繋がり、教職員の成長を促し、しいては自然と園児の成長につながるものと信じているため、労働環境の整備を継続してほしい。

以上